

空堀川の白鷺(しらさぎ)は2種類

シベリア寒気団が強まり南下して冬本番となりました。西高東低の冬型の気圧配置が強まり、大陸から北西の季節風が吹き、日本海側は大雪、太平洋側は乾燥した「からっ風」が吹き、晴天が続いています。そのため空堀川は、すっかり干上がり、所々に水溜まりや淵が残っている状態で、鳥たちがその水辺に集まっています。

その中に大きい白い鳥を見かけますが、これは白鷺(しらさぎ)です。白い大きな鳥というと鶴を思いだしますが、清瀬ではまず見かけることはないようです。飛ぶ時に首を伸ばしているのは鶴で、曲げているのは鷺です。

白鷺は、白い鷺たちの総称で、主にダイサギ、チュウサギ、コサギの3種類です。見分け方は、名前の通りに大きさを比べればおよその検討は付きますが、ダイとチュウの差や、単独でいるときなどは迷いますね。

●チュウサギ

夏にやってくる渡り鳥なので、冬には南アジアに帰っていますし、水田や淡水の湿地が好きなので、清瀬で見かけることはほとんどなさそうです。

●ダイサギ と コサギ

一年中見かけます。白い鳥で、鶴くらい大きければ、ダイサギ、カラス大の大きさならコサギです。

【もう少し確実見分けるポイント】

- 足の指の色：ダイサギとチュウサギは黒、コサギは黄色です。

- 嘴(くちばし)の色：足指とは逆で、ダイサギとチュウサギは黄色、コサギは黒です。

※注意：夏の繁殖期のダイサギはくちばしは黒くなります。

■ダイサギとチュウサギの区別

- 首の長：ダイサギは細長い、チュウサギは短い
- くちばし：ダイサギは細く長い、チュウサギは短い
- 口角(くちばしの口元)の位置：ダイサギは目より後ろ、チュウサギは目の下まで

あと繁殖期の飾り羽の違いなどもありますが、どれも見慣れる必要があります。

チュウサギは、もともと清瀬にはまず来ませんので見る機会なので、ダイサギを良く見慣れておいて、サギを観察したときに、「あれ？ ちょっと違うかな？」っと、違和感があれば、確かめてみるとよいですね。

バードウォッチングのポイントは、その地域でよく見かける鳥をまず、良く見慣れておくことです。声や跳び方や行動など、それぞれ特徴があります。そして鳥を見つつけ時に、「あれ？ っと、違和感」があれば、違う種類の可能性があります。

■アオサギ

右の写真は、青味をおびたグレー色をした大型のアオサギです。ダイサギなみの大型なのですが、高い木の枝先にとまっていることが多いです。目の上から後頭部にかけての黒いラインが特徴的です。

他に、ゴイサギやホシゴイ(ゴイサギの幼鳥)なども空堀川に顔を出してくれます。

